

## No.80 >>> Contents

●年頭所感	一般財団法人大日本蚕糸会 会頭 内藤邦男	1
●一般財団法人大日本蚕糸会から		
令和5年度蚕糸功労者表彰（第79回）		3
●トピックス		
シルクサミット2023 in 横浜 日本の「絹」は横浜から世界へ を開催して	シルクサミット事務局 岡田英二	6
6万頭の飼育研修	兵庫県養父市地域おこし協力隊 石井明日香	8
●研究・技術情報		
貞明皇后記念蚕糸科学賞 遺伝子組換えカイコを用いた有用タンパク質生産系の開発	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 絹糸昆虫高度利用研究領域 カイコ基盤技術開発グループ 上級研究員 立松謙一郎	10
貞明皇后記念蚕糸科学賞 「桑葉の耐虫性物質の発見と利用技術の開発」を受賞して	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 昆虫利用技術研究領域 昆虫制御技術グループ 上級研究員 今野浩太郎	12
●蚕糸・絹業団体情報		
京都工芸繊維大学嵯峨キャンパス「蚕糸資料ギャラリー」の紹介	京都工芸繊維大学 応用生物学系 准教授 長岡純治	16
●蚕糸偉人の足跡を訪ねる		
第7回「佐々木長淳」	（一財）大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 元客員研究員 清水重人	18
●イベント情報		23
●一般財団法人大日本蚕糸会から		
2023年度第3次分の純国産絹マーク使用許諾状況		28
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧		31
活動日誌		39
●蚕糸絹関係博物館一覧		40
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧		43
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）		46

# 年 頭 所 感



一般財団法人大日本蚕糸会  
会 頭 内藤邦男

明けましておめでとうございます。

昨年は、エネルギー、資材・原料の価格高騰、高止まりに加え、異常に暑い日が続き、農産物の生産にも悪影響を及ぼしました。物価高の背景にあるのは、ロシアによるウクライナ侵攻、歴史的な円安などに伴う、原油、輸入の食料・原材料価格の高騰であり、異常気象には地球温暖化などの気候変動が大きくかかわっています。いずれも、世界全体で対応しなければ解決は難しい課題です。

また、コロナ禍や紛争などの地政学的リスクによるグローバルサプライチェーンの脆弱性、更には外国による経済的威圧の脅威等が顕在化し、原材料の調達・販路も見直しが求められています。これまでの効率性とコスト低減をひたすら追求して世界中から原材料を調達してきた時代から、安定的な調達、感染症の発生など想定外のショックにも迅速に対応できる頑健性・回復力を重視したサプライチェーンを再構築すべき時代に変化してきているようです。

この大きな構造変化と為替変動リスクに対応するためには、国産を含めた調達先の多様化、更には環境を重視し、働き方改革も取り入れた生産流通への転換が必要になってきます。いずれもコスト増となり、製品価格への転嫁を強いられます。コロナ禍での苦しかった3年間を乗り越えたものの、物価高の中で苦勞し節約志向を強めている消費者に値上げを受け入れてもらうためには、その製品の価値を明確にし、それをしっかり消費者に伝えていくことが重要になってきます。そして、製品値上げを賃上げに結び付けていくことで経済の好循環が実現します。

シルクは、気品ある光沢から繊維の女王といわれ、その吸湿性、保湿性の良さに加え、石

---

---

油由来ではない天然素材として環境負荷の低減にも貢献できる価値を有しています。更に、人の体との親和性から医薬品、再生医療素材として、また、シルクのアミノ酸の生活習慣病予防効果も注目されています。このシルク、養蚕の持つ価値、魅力をきちんと消費者に伝えていくことが重要です。

そんなシルクを作り出すカイコの魅力を身近に知ってもらおうと、全国の7つの蚕糸関係博物館と共同して、主に小中学生を対象に「カイコを育てよう！キャンペーン」を行っています。1か月程度と短い期間で、自らカイコを飼育しマユができるまでを体験してもらいます。カイコという生き物を育てるわけですから、温度などに気を使いながら桑を怠らず給餌するなどの難しさはありますが、きれいなマユを作り出すという達成感も味わえます。人の意のままにならない「生き物を育てる」という教育効果も大きいと考えています。

全国各地の小中学生にカイコを育てる動きが広がり、その魅力を感じてもらえたら、大人になって養蚕を始めてみようという人が増えるのではと期待しています。現在、養蚕、生糸の魅力発信、新商品の開発をオンラインやリアルで集まって話し合っている若手養蚕農家中心のグループがありますが、そのメンバーも拡大していくでしょう。これも社会の行動変容を引き起こすという意味でイノベーションといえます。画期的技術革新ではありませんが。

大日本蚕糸会では、蚕糸科学技術研究所で新規に養蚕を始めたいという人に短期間の研修を行っています。昨年は3名の方が参加されました。新たに養蚕に取り組もうという企業から派遣された方もおられました。マユ・生糸タンパク質の医薬、検査・診断薬、医療器具、化粧品、食品などへの活用に関心を持つ企業が出ています。また、作業工程が多い養蚕との相性の良さに着目し、作業を細分化して、障害者がそれぞれ持つ能力や個性を發揮してもらおうと養蚕を始めた企業、団体もあります。新規に参入される方々向けに養蚕技術が分かる動画の配信も始まります。

将来に対する不確実性が高まっています。皆様方からお知恵とご協力を得ながら、大日本蚕糸会は、本年も、我が国の蚕糸絹業の発展のため、蚕糸科学技術研究所の持つ研究開発、技術指導機能を生かし、国産生糸・絹製品の持つ価値情報の発信に努め、全国シルクビジネス協議会への参画、蚕糸絹提携自立化支援、純国産絹マークの普及などに取り組み、本会に期待される役割が果たせますよう努めて参りますので、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

## 令和5年度蚕糸功労者表彰式（第79回）



第79回を迎える一般財団法人大日本蚕糸会主催の令和5年度「蚕糸功労者表彰式」は、去る令和5年11月1日（水）東京都千代田区内幸町・帝国ホテル3階富士の間において、総裁常陸宮正仁親王殿下御臨席のもと、挙行了しました。本表彰式では、恩賜賞1名、蚕糸功績賞3名、蚕糸功労賞18名、蚕糸有功賞7名、貞明皇后記念蚕糸科学賞2件、蚕糸絹文化学習教育奨励褒賞「蚕を学ぶ奨励賞」2件が栄えある表彰を受けられました。

### 1. 恩賜賞（1名）

桂 由美 （株）ユミカツラインターナショナル社長

---

---

## 2. 蚕糸功績賞（3名）

玉田 靖	現	信州大学特任教授
田村 俊樹	元	独立行政法人農業生物資源研究所 遺伝子組換えカイコ研究センター長
中山 泰	現	京都府京丹後市長

## 3. 蚕糸功労賞（18名）

岩手 県	江見 夏 恵
宮城 県	吉見 光 宣
宮城 県	佐藤 昌 子
山形 県	伊藤 聡 子
福島 県	奥谷 陽之助
福島 県	本多 希 彦
群馬 県	桑原 伸 夫
群馬 県	岡 喜久男
長野 県	木口 和 英
京都 府	小石原 正 志
徳島 県	若尾 良 治
(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構	内野 恵 郎
(一社) 日本絹人織織物工業会	坪井 秀 夫
(一社) 全日本きもの振興会	加瀬谷 行 雄
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会	竹 鼻 進
本 会	久米 哲 雄
本 会	富澤 輝実子
本 会	松本 正 江

## 4. 蚕糸有功賞（7名）

福島 県	名倉 明 夫
群馬 県	中島 ミヤ子
京都 府	平野 晋 哉
京都 府	中濱 典 裕
愛媛 県	澤井 秀 幸
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会	小倉 悟
本 会	木原 雅 子

---

---

5. 令和5年度（第66回）貞明皇后記念蚕糸科学賞

「桑葉の耐虫性物質の発見と利用技術の開発」

（国研）農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門

今野 浩太郎

「遺伝子組換えカイコによる有用タンパク質発現量向上に関する技術開発」

（国研）農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門

立松 謙一郎

6. 令和5年度（第11回）蚕糸絹文化学習教育奨励褒賞

「蚕を学ぶ奨励賞」

宮城県 気仙沼市立月立小学校

群馬県 藤岡市教育委員会

（敬称は略させていただきました）

## シルクサミット 2023 in 横浜 日本の「絹」は横浜から世界へ を開催して

シルクサミット事務局  
岡田英二

今回のシルクサミットは横浜市役所 1 階アトリウムで、10月6、7日の2日間行われました。横浜では2003年の第4回に行われ、この第24回は、20年・20回振りの開催となりました。横浜で活動する「日本シルクを守り育てる会」会長と農研機構の研究者が、民放のテレビ番組に出演したことが、開催地のきっかけです。横浜は絹（シルク）の産地ではありませんが、開港した江戸末期より、シルクは横浜から世界へと出て行きました。シルクは明治以降の国内政策である富国強兵・殖産興業の最大の担い手となり、欧米から外貨を稼ぎ、日本を一等国へと押し上げました。日本の発展の基礎を作った地での再開となり、当日は開催に先立ち、往時の日本を物語る、熊谷友幸監督の「シルク時空(とき)をこえて」が上映され、日本の蚕糸業とその功績がよく分かる興味深い作品で、サミットを盛り上げていただきました。

口切りに、大正大学の松本洋幸准教授による「震災復興と大横浜の時代～生糸貿易港から工業港へ」と題して基調講演が行われました。ペリー来日から現代までの横浜の歴史を俯瞰し、関東大震災の被害にス

ットを当て、復興への流れから、大横浜を目指しての生糸貿易港から工業港への変遷、生糸や蚕糸業を品質重視へと転換し、現在の横浜へと至る経緯が解説されました。次いで、活動事例報告が行われ、ギルダ横濱、株式会社藤商の内藤信義さんにより、「伝統技術で繋ぐ横浜スカーフ」と題して、横浜スカーフの製造工程である、デザイン、型、染め、生地選び、手巻き（縫製）について、分業による工程や地場産品としての矜持を分かりやすく紹介していただきました。続いて、シルク博物館学芸員、佐野遊海さんから、シルク博物館教育普及事業「チャレンジ! かいこプログラム」についての紹介がありました。シルク博物館では、絹への理解や普及のための教育普及事業に注力して、かいこの飼育、かいこ教室、ワークショップを通してかいこを学んだ成果の発表会と小学生向けに事業を推進している活動報告でした。休憩後、農研機構から上樂明也・上級研究員により「ゲノム情報を活用したカイコ品種の系統分類」と題して発表されました。カイコは、世界の地域に基づき日本種、中国種、欧州種、熱帯種の4グループに分類されていますが、これらに所



シルクサミット（会場の様子）

属するカイコについて再評価したところ、ほとんどのカイコは従来の地域分類に当てはまりましたが、一部は当てはまらないことが分かりました。中でも「セヴェンヌ白」という品種は明治・大正期にフランスから輸入されましたが、欧州種ではなく日本種に分類され、その解釈として、江戸末期から明治初期に横浜港から欧州に輸出されたカイコ品種が日本に逆輸入されたのではないかと考察され、とても興味深かったです。さらに株式会社シルクモア研究所の大関孝浩さんから「カイコ利用に新たな付加価値を。（発酵と化粧品原料）」という題名で報告がありました。カイコ由来の化粧品原料は、化学分解・精製による製法が普通ですが、その生体材料を、環境負荷の低い発酵で有用成分へと変換・増量する方法を利用し、小規模事業者による独自原料製造への参入や養蚕地域の6次産業化に向けた展開を図る内容でした。最後に、MICHIO INABAのファッションデザイナー、稲葉みちよさんより「横浜発日本シルクの復権～発信し続けて30年～」と題して報告がありました。デザイナーとして地元で活躍し、ファッシ

ョンを中心にシルクを介在して人と経済を循環させるシステム「コクーンプロジェクト」を立ち上げ、その活動組織、「日本シルクを守り育てる会」を結成し、横浜絹フェスティバルの開催から新たに横濱コクーン・スクウェアへと繋ぎ、シルクを横浜の偉大な観光資源として発信し続けて来たことを語っていただきました。

そして、コロナ禍で開催ができなかった交流会を4年振りに横浜中華街の老舗で行いました。次回の開催地、岡谷蚕糸博物館の高林千幸館長から乾杯の挨拶をいただき、グラスを傾けながら、お互いの近況を報告し、新しい仲間を作り、と本来のシルクサミットの活動が復活した印象を受けました。翌日は、午前中に三溪園の産地見学会、午後から共同開催した横濱コクーン・スクウェアのイベントが行われました。今回のサミットの登録者は98名でしたが、大型スクリーンを装備したアトリウムというオープンスペースを会場としたことで、1000人を超える方が実際に自由参加され、多くの方にシルクサミットが認識されたと感じました。

## 6万頭の飼育研修

兵庫県養父市地域おこし協力隊  
石井明日香

9月初頭から10月半ばまでの約40日間、蚕糸科学技術研究所の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

### 兵庫県養父市より

兵庫県養父市の地域おこし協力隊という立場でこの度の研修に参加させていただきました。

養父市は、養蚕秘録を執筆した上垣守国<sup>うえがきもりくに</sup>氏の故郷です。養蚕の教科書とも呼ばれ、日本に留まらずヨーロッパにも普及したこの本は、質の良い蚕種を買い付けるため上垣氏自身が但馬から福島まで歩いて旅をし、その道中や蚕種家の下で実際に教わった養蚕技術や各地域の特色、養蚕の歴史や文学に関わる事柄をまとめたものです。

この本が出版され、養蚕農家が増えた後、兵庫県立簡易蚕業学校や県内最大の蚕種製造所である豊受社<sup>ほうじゆ</sup>、ゲンゼ等の製糸場も各所に作られ、さらに養蚕や製糸が盛んに行われる地域となりました。歴史的にも養蚕と縁の深い場所でしたが残念ながら昭和40年ごろを最後に養蚕農家はいなくなってしまう現在に至ります。

上垣氏が生まれた養父市大屋町蔵垣には「かいこの里」という施設があり、私

は2022年からこの場所で養蚕を学んでいます。繭を大量生産し収入を得るものではなく、地元の方々や観光客の皆さんに当時の養蚕手法を見学・体験してもらうことをメインとした小規模な養蚕ですが、当時の古い蚕具を使用して飼育をしたことがなかった私にとって大変大きな経験となりました。廃れてしまった地域の養蚕を文面で残すだけではなく形として残すことの大切さを実感した上で、自分の蚕室を持つことが目標なので産業としての養蚕もできるようにしたい、竹編みの蚕箔だけでなくスーパー飼育台を使った大量飼育方法とその基礎もしっかり学びたいと考えたのが研修に参加したきっかけです。

### 研修を受けて

錦秋×鐘和の6万頭飼育は人生最大の養蚕となりました。稚蚕飼育時はそれほど苦労しませんでした。4齢になり屋外蚕室に移動してからは怒涛の食欲が発揮され摘桑・給桑共に重労働の大仕事。養父市に今ある桑畑分の量は与えたと思います。それでも減ったように見えない研究所の桑畑はあまりにも広大で足を踏み入れる度に感嘆していました。あれだけ青々とした桑がたくさんあるのに、鹿がほぼいないので防獣柵は必要ないというのがにわかには信じられ

ず大変羨ましかったです。

身体が鍛えられるのと同時にこの規模で必要な蚕具数や飼育スペース・作業時間と人手の目安を、身を以て知ることができたのは本当にありがたいことでした。また、給桑翌日の飼育台の状態チェックは桑の多少を見極める重要な練習になりました。大量飼育でお蚕さんの成長を揃わせるためには全体を目視した際の様子や匂いから感覚を掴み判断する必要があることを肝に銘じ今後の養蚕を通じてこの感覚を育てていきたいと思えます。

今回は私を含め3人の実習生が参加しており、全員養蚕の経験がある方々でした。飼育規模や方法はそれぞれ違いましたが山地の豪雪地帯で養蚕をしているという共通点があり様々な情報交換や各飼育環境での困りごとを共有できた点も、この研修で得た収穫の一つです。

飼育方法や桑畑の整備・蚕病対策など直接お蚕さんに関わることを以外に、研修に来なければ一生見ることがなかった蚕種製造や繰糸の現場と機械、糸や布の研究を目の当たりにし経験することができました。

最後の最後まであらゆる技術や助言について教えていただきました。

## 養父市に戻って

現在の養父市は稚蚕共同飼育所もなく、蚕具も少なく、桑畑は抜根されてしまいほぼ残っていません。実際に養蚕を営まれていた方も減ってしまい、「かいこの里」にも経験者は一人もいない状況です。私自身、親戚に養蚕農家はおろか農業に関わる人はおらず、幼少から好きだった芋虫の飼育趣味の延長で学生時代に初めてお蚕さんを飼育したことからようやく養蚕という世界に興味を持った完全な素人です。これまでの蚕期はこの飼育方法でいいのか、もし蚕病が出てしまったらどう対処すればいいのかと無知による不安と疑問をずっと抱えていましたが、研修が終わった後は学んだことを早く活かしたくて次の蚕期を心待ちにしている状態です。人も環境も0からのスタートではありますが、これを逆手に昔とは違う新しいことにもチャレンジしていきたいです。

まずは1万頭の飼育目標を実現できるよう研修で教えていただいたことを参考に、春に植えた桑畑から環境を整えていく予定です。養父市のこれまでとこれからの養蚕を守り体現していけるよう、そしていつの日か養父市の養蚕農家ですと名乗れるよう努力してまいります。



5 齢蚕



収穫

## 貞明皇后記念蚕糸科学賞

### 遺伝子組換えカイコを用いた有用タンパク質生産系の開発

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

生物機能利用研究部門 絹糸昆虫高度利用研究領域

カイコ基盤技術開発グループ

上級研究員 立松謙一郎

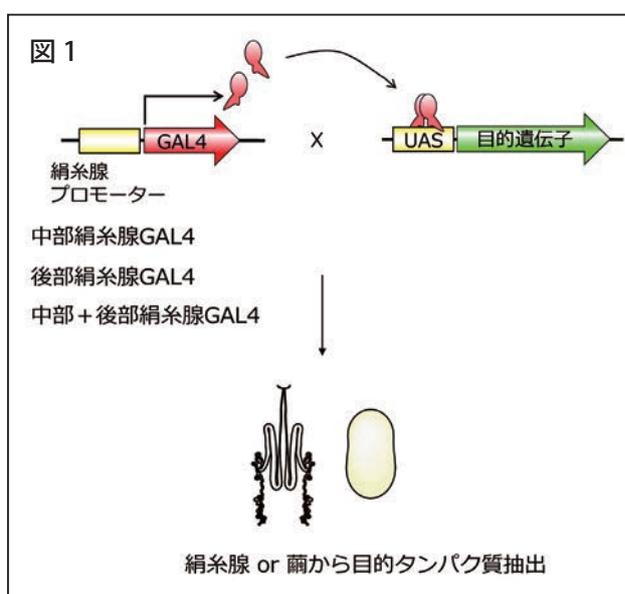
#### はじめに

皆さんは、“タンパク質”や“プロテイン”と聞いて何を思い浮かべますでしょうか？三大栄養素の一つとしてタンパク質や、筋トレの際に摂取するサプリメントとしてのプロテインでしょうか？タンパク質は食べ物として以外に、研究用途にも多く用いられているほか、最近では、医療における利用が広がっています。例えば、2023年9月に日本でも承認されたアルツハイマー病の新薬「レカネマブ」はタンパク質である抗体を用いた医薬品です。現在、日米欧で100品目以上の抗体医薬品が承認されているほか、新型コロナウイルスの抗原や抗体検査キットのような体外検査試薬にも、タンパク質は使われています。

本稿では、このような有用なタンパク質を遺伝子組換えカイコ（以下、組換えカイコ）で生産する系の開発とその展望について紹介します。

#### 組換えカイコでの有用タンパク質生産系

カイコはご存じの通り、ほぼタンパク質からなる繭を作ります。組換えカイコによる有用タンパク質生産系では、このカイコの繭を作る能力を利用します。我々が組換えカイコを用いて有用タンパク質を生産す



る際には、GAL4/UAS法と呼ばれる発現系を利用しています（図1）。この発現系は、目的遺伝子の発現部位を容易に変更できるという特色があり、繭のタンパク質を発現している絹糸腺と呼ばれる部位で有用タンパク質の遺伝子を発現させています。開発当初は1頭あたりの有用タンパク質生産量が約160μgしかありませんでした。用いていたカイコ系統の繭層重は約150mgでしたので、カイコの絹糸腺が持つタンパク質生産能力のほぼ1000分の1しか利用できていないこととなります。このままでは実用化は困難であったので、2006年から生産効率の向上のための改良に取り組んできました。当初は、有用タンパク質の生産に

は、可溶性タンパク質であるセリシンを発現している中部絹糸腺が適していると考えられていました。そこで、目的タンパク質の遺伝子の近傍をできるだけセリシン1遺伝子と同じ配列を持つように改良しました。また、GAL4/UAS法の利点を活かして、後部絹糸腺での生産を試してみたところ、発現量が顕著に上昇しました。さらに、GAL4に換わる配列特異性のより高い因子を開発するなど、試行錯誤を積み重ねていった結果、現状では、研究開始当時の約180倍にまで発現効率を向上させることができました(図2)。これまでに企業と共同研究で組換えカイコによる有用タンパク質生産の実証試験を行い、いくつかのタンパク質は実用化されています。

近年、ゲノム編集技術と呼ばれるゲノム中の狙ったDNA配列を操作できる技術が一般的になりつつあります。組換えカイコを用いた有用タンパク質生産においても、ゲノム編集技術の活用によってまだまだ生産効率が向上し、様々なタンパク質発現への実用化が広がると期待されますので、ご興味のある方はご連絡下さい。



## 謝辞

この度、上記の研究に対して、令和5年度(第66回)貞明皇后記念蚕糸科学賞という大変栄誉ある賞を戴きました。本研究の遂行にあたり、大変多くの方にご指導ご鞭撻を頂きました。小瀬川英一博士、廣川昌彦博士は、カイコのカの字も分からなかった私にカイコ研究の一步を踏み出させて下さいました。歴代上司の田村俊樹博士、町井博明博士、門野敬子博士、桑名芳彦博士、瀬筒秀樹博士には、多大なる研究のサポートを頂きました。故中村薫氏、三澤利彦氏、橋本好二氏、古橋紗瑛氏、小山未琴氏には、組換えカイコの作出、飼育にご尽力頂きました。研究室の皆様には多方にわたってご協力頂き、特に早川舞氏は献身的に実験をして下さいました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

## 図の説明

図1 GAL4/UAS法。酵母の転写因子であるGAL4タンパク質がUAS配列に結合し近傍の遺伝子発現を活性化することを利用している。組換えカイコによる有用タンパク質生産系では、主に中部絹糸腺や後部絹糸腺で発現するプロモーターを用い、絹糸腺や繭から目的のタンパク質を回収する。

図2 発現系の改良による発現量の変化。遺伝子発現に関する因子をセリシン1の物に置換することや、後部絹糸腺での発現、GAL4に換わる転写因子の開発などを組み合わせることにより、研究当初の約180倍に発現量が増加した。

## 貞明皇后記念蚕糸科学賞

### 「桑葉の耐虫性物質の発見と利用技術の開発」を受賞して

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
 生物機能利用研究部門 昆虫利用技術研究領域  
 昆虫制御技術グループ

上級研究員 今野浩太郎

この度、貞明皇后記念蚕糸科学賞を受賞できたことは誠に名誉なことであり大変感激しているとともに関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。この機会に受賞対象の研究を始めるに至った経緯と研究内容を簡単に紹介させていただきたいと思う。

#### クワの葉の耐虫活性とクワとカイコの攻防関係の発見に至った経緯

数千年以上にわたる養蚕の歴史の中でクワの葉はカイコの唯一かつ最適の餌として用いられてきた。このためクワの葉が昆虫に対して毒などの防御活性があるとは誰も気づかなかった。私がクワの葉の研究を始めたのは2003年頃だったと思う。その頃私はエリサンという与えれば大抵の植物を食べるがその植物の毒には当たってしまうエリサン (*Samia ricini* ヤママユガ科、インド原産の野蚕) の幼虫を使って様々な植物の葉に昆虫に対する毒性があるか調べていた。その中で、パパイヤやイチジクなどの乳液 (葉や植物組織を傷つけたときに植物の傷口から滲出してくる白い液) を出す植物は大抵昆虫に対して毒性を示し乳液の中

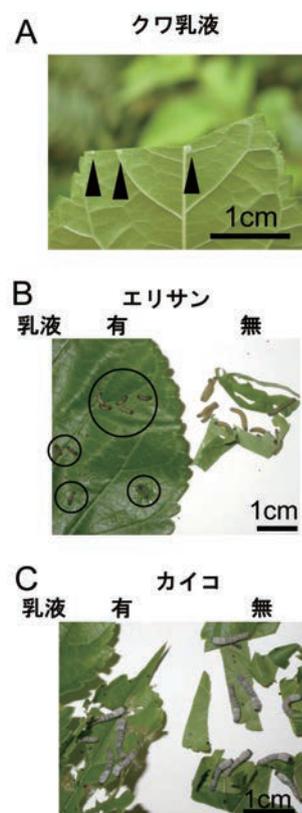


図1 クワ乳液とその耐虫性効果

- 傷ついた葉脈から出てくる白いクワ乳液 (矢印)
- クワの葉を食べたエリサン幼虫。写真右のクワの無傷の葉を食べたエリサンは滲出した毒性のあるクワ乳液の影響で成長できずに死亡する (丸で囲まれた幼虫)。写真左の葉を細切りにし水で乳液を洗い落とした葉を食べた場合はクワの毒性は消えエリサンは成長できる。
- カイコはクワの防御に適応していて乳液があっても (写真左) 乳液がなくても (写真右) 同様に成長できクワの乳液の毒性に適応していることがわかる。

に毒成分が含まれていることを発見していた。例えばパパイヤやイチジクではパパインやフィシンというタンパク質分解酵素が含まれていて葉を食べたエリサンなどの昆虫が乳液を飲み込んでしまうと死んでしまうことがわかった。つまり、植物の乳液は植物が昆虫に食べられないように身を守る昆虫に対する毒液であり防御機構であることを発見したのだった。その時ふと頭に浮かんだのがクワの葉も傷口から乳液を出す事実である（図1A）。では、クワの乳液もクワの防御機構であって、昆虫に対して毒性があるのか。そこで早速、エリサンにクワの葉を食べさせたところ。エリサンはクワの葉をかじりはするものの、すぐに食欲をなくし、数日のうちに死んでしまった（図1B左）。しかし、葉を細切りに水で乳液を洗い流した葉をカイコにエリサンに与えたところ葉の毒性消えエリサンは順調に成長した（図1B右）。逆に、クワの乳液を人工飼料に混ぜてエリサンに与えたところ、エリサンは成長出来なくなった。クワの乳液が昆虫の食害から身を守るための防御の働きを発見した最初の実験であった。野菜の害虫として有名なヨトウガにクワの葉を食べさせても、乳液の防御効果のために育てずに死んでしまったが、乳液を洗い落としたクワの葉を食べさせた場合は順調に育った。一方、カイコに対しても同じ実験を試みたが、乳液が出るクワの葉を食べさせても、細切りにして乳液を洗い落とした葉を食べさせても、どちらの場合でもカイコは非常に良く育った（図1C）。つまりクワ

の葉は乳液の毒性で一般の昆虫の食害から身を守っているがカイコはその防御を打ち破って食べているということが見えてきたわけである。

## クワ乳液に含まれる耐虫性物質：糖類似アルカロイドと MLX56 の発見

ここからの研究は乳液にどのような防御物質が含まれているかということを探明することだった。乳液には2つのタイプの防御物質が含まれていた（図2）。最初に明らかにしたのは糖類似アルカロイドと呼ばれる糖に酷似した構造を持つが糖代謝酵素を阻害する数種のアルカロイドであった（図2A）。一般の昆虫が糖類似アルカロ

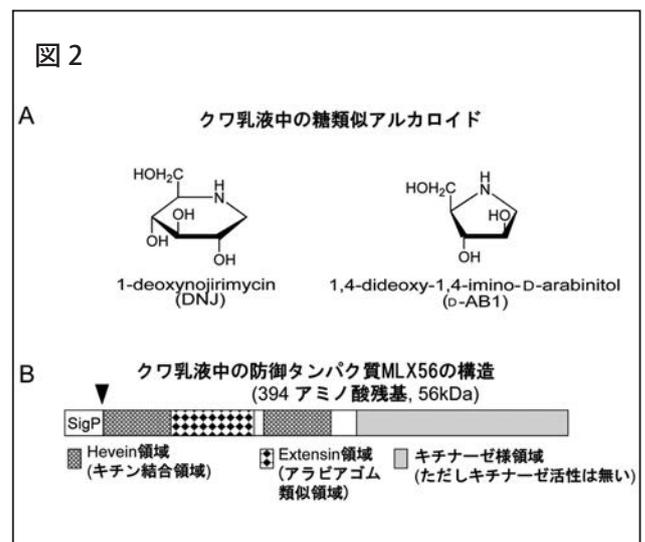


図2 クワ乳液中に含まれる耐虫性分

A. 糖類似アルカロイド B. MLX56 耐虫性タンパク質

イドを摂取すると、摂食した葉からショ糖などの糖を消化するショ糖分解酵素や、血糖のトレハロースを分解する酵素のトレハラーゼが阻害され昆虫は成長できず死亡してしまう。しかし、カイコの糖代謝酵素は

糖類似アルカロイドに阻害されないように進化していて糖類似アルカロイドの毒性に影響されなかった。乳液に含まれるもう1つのタイプの防御物質はMLX56という全く新しいタイプの防御タンパク質であった(図2B)。このタンパク質はキチンと結合するHevein領域とゲル化膨潤効果をもつExtensin領域を含み、昆虫の消化管内に摂食した植物を包むように存在しているキチンを主体とする薄膜である囲食膜(消化管細胞を植物破片や病原体から守る働きがあるが、栄養や消化酵素が通過できる必要もあるため十分に薄い)にHevein領域で結合しExtensin領域で囲食膜を膨潤させ消化酵素や栄養素を通しにくい厚い膜となり消化を阻害する。エリサンやヨトウガなど一般の昆虫に対しては0.01%の極めて低い濃度で餌中に存在するだけで昆虫の成長を効果的に阻害できる強い耐虫性活性を持っていた。しかしカイコでは囲食膜はMLX56を食べた時でも肥厚せず成長も阻害されなかった。カイコはMLX56にも適応していたのだ。

### クワ乳液由来 MLX56 耐虫性タンパク質の耐虫性作物作出への利用

MLX56は一般の昆虫に低濃度で強い成長阻害活性を持つため、作物にMLX56を導入してやればその作物に成長阻害活性を付与できると考えられたが、実際トマトにMLX56を発現したところそのトマトの葉はアザミウマ目のミカンキイロアザミウマ(図3A)、コウチュウ目のニジュウヤホシテン

トウ幼虫(図3B)、チョウ目のハスモンヨトウ幼虫、など広範な分類群の害虫に顕著な耐虫性・抵抗性をしめし、葉はほとんど食害をされないしこれらの害虫もほとんど成長しなかった。

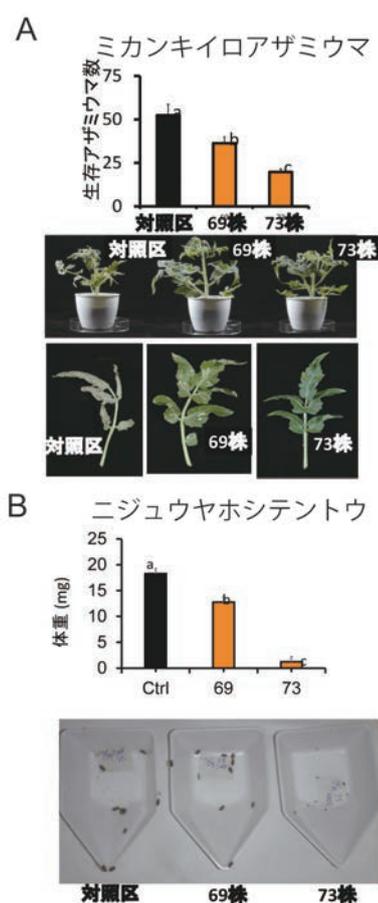


図3 MLX56 遺伝子を利用した害虫に強いトマトの作製  
MLX56 強発現系統 73 株、弱発現系統 69 株、対照系統(無発現系統)の3系統をニジュウヤホシテントウとミカンキイロアザミウマに摂食させた。A. ミカンキイロアザミウマ(20匹の雌成虫を3-4終齢のトマト株に放って2週間後の状態)。生存数(上)、株の被害(中)葉の被害(下)。B. ニジュウヤホシテントウ孵化幼虫(体重平均0.14mg)に3系統のトマト葉を9日間摂食させたときの体重(上)と写真(下)。MLX56系統、特に強発現系統76はミカンキイロアザミウマとニジュウヤホシテントウに対して極めて強い耐虫性を示し、76株はミカンキイロアザミウマの被害をほとんど受けず、76株の葉ではニジュウヤホシテントウはほとんど成長できなかった。

---

---

## おわりに

このようにクワが乳液中の糖類似アルカロイドや MLX56 耐虫性タンパク質で昆虫に食害されないよう防御機構を進化・発達させる一方、クワを専門に食べるカイコが糖類似アルカロイドと MLX56 両方に抵抗性・適応機構を進化させて適応しているという、これまで全く未知であった「カイコとクワの食うか食われぬかの攻防関係」という自然の神秘を発見できたのみならず、MLX56 を作物に発現させることによって耐虫性作物を開発できることという実用的なことまで示せたことは幸運であった。これらの研究が評価されて貞明皇后記念蚕糸科学賞受賞に至ったと思われるが大変光栄なことと感謝している。なお、発見の内容をより深く知りたい方は、下に示す参考文献をお読みいただきたい。

### 文献：

- 1) 今野浩太郎 (2023) クワ乳液由来防御タンパク質 MLX56 の昆虫成長阻害作用と中腸囲食膜に対する肥厚作用および耐虫性作物育種への応用, 蚕糸・昆虫バイオテック 92(3)153-159.

## 京都工芸繊維大学嵯峨キャンパス「蚕糸資料ギャラリー」の紹介

京都工芸繊維大学 応用生物学系

准教授 長岡純治

### 1. 京都工芸繊維大学の嵯峨キャンパス

農商務省所管の京都蠶業講習所は、明治32（1899）年 葛野郡衣笠村（現 京都市北区大將軍坂田町；花園）に創設され、大正3（1914）年に 文部省直轄校 京都高等蠶業學校、昭和6（1931）年に 京都高等蠶絲學校、昭和19（1944）年に 京都繊維専門學校と改称することで繊維全般の学術研究および教育機関となりました。昭和24（1949）年に京都工業専門学校と統合して京都工芸繊維大学が設立されました。昭和43（1968）年に大学本部は松ヶ崎（現 京都市左京区松ヶ崎橋上町）へと移転しましたが、京都高等蠶業學校時代の 大正10（1921）年に嵯峨村（現 京都市右京区嵯峨一本木町）に設置された実験・実習桑園は、大学嵯峨キャンパスとして、形を変えながらも生物資源フィールド科学教育研究センター（CBFS）へと引き継がれてきました。現在でも、毎年、応用生物学課程の学生実験・実習を兼ねた春蚕と初秋蚕期の家蚕飼育（それぞれ20,000頭程度）と蚕・桑の品種・系統保存事業が行なわれ、「蚕糸生物」およびその関連分野の教育・研究活動が展開されています。

### 2. 「蚕糸資料ギャラリー」開設の経緯

CBFS 別棟片隅には、400余点の養蚕に関連した標本・資料・教育資材が未整理状態で保管されてきました。令和元（2019）年「附属農場開設70年・ショウジョウバエ遺伝資源センター設立20周年記念講演会」が催され、松ヶ崎キャンパス附属図書館では、図書館所蔵の蚕糸関連図書資料とCBFS保有の蚕糸関連標本資料のタイアップ企画展が開催されました。これをきっかけに、所蔵資料の整理と常設展示スペースの設置準備が本館一角で進み、令和4（2022）年11月12日「嵯峨キャンパス開設100周年記念事業」に於いて開設記念セレモニーを執り行うことが出来ました。

### 3. 展示品の由来と種類

大学本部が花園から松ヶ崎に移転する際に、当時の各研究室が所蔵していた教育資料や研究成果を預かる形で収蔵されたものと、本学元教授 高濱（一田）昌利 先生が個人的に収集され、退職時に本学へと寄贈された養蚕器具や顕微鏡などの研究用道具、繭および糸標本から構成されています。

### 4. 特徴的な展示品の紹介

① 大正初期に集められた世界各地の生糸

標本：マレーシア、フランス、イタリア、トルコ、ビルマ（ラングーンと記述されている）および広東など世界各地で生産された生糸標本です。当時の生糸光沢や繭の大きさ、繰糸方法の違いなどを知ることができます。

- ② 昭和初期に集められた野蚕糸標本：台湾及び中国産テグスサン (*Eriogyna pyretorum*) 繭とテグス標本です。また、野蚕と呼ばれるヤマユガの仲間（テンサン、サクサン、クスサン、タサーサン、エリサン、ウスタビガ等）の繭と糸が収蔵されています。
- ③ 明治期から昭和初期に行われた累積淘汰研究成果標本：繭形に注目して、40世代を超える交配と選抜がどのように影響したのかを表しています。
- ④ 桑紙制作過程標本
- ⑤ 第2次世界大戦中に開発された、蛹を原料としたアミノ酸醤油と油の瓶
- ⑥ 1954年頃に京都科学標本株式会社（京都科学株）が作成した病蠶模型、蠶蛆発育順序模型、蠶兒雌雄鑑別模型、蠶生活環模型

このほかに、蚕種製造（繭の雌雄分別秤、微粒子検査用道具、母蛾保管箱）、育蚕（卵の千粒付け装置、散粒器、蚕体消毒剤散布器）、採桑（桑こぎ器、桑爪）、繭一粒秤、繭粒数量り枱、糸繰器、検尺器などが展示されています。

## 5. 最後に

現在、本学学生の養蚕関連実験・実習、CBFS主催の親子体験教室、小中高等学校への蚕を通じた連携教育事業において公開・活用されています。今後、より一層、蚕糸情報の発信に寄与できるよう、資料整理の促進と公開を進めていきたいと考えております。

### ■ 問い合わせ先：

京都工芸繊維大学嵯峨キャンパス  
生物資源フィールド科学教育研究センター  
(CBFS)  
〒616-8354  
京都市右京区嵯峨一本木町1  
TEL: 075-861-0714  
FAX: 075-861-0790  
<https://www.cbfs.kit.ac.jp/>



醤油・油瓶と蠶生活環模型



顕微鏡・繭一粒秤等の展示品

## 第7回「佐々木長淳」

(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所

元客員研究員 清水重人

今回の蚕糸偉人は、我が国蚕学<sup>ちゆうせき</sup>の柱石<sup>ちゆうせき</sup>「佐々木長淳<sup>ちようじゆん</sup> (注1)」です (図1)。

氏は、文政13年(天保元年)(1830)9月、福井県で福井藩士佐々木家の長男として生まれた。嘉永6年(1853)24歳の時、家督を相続すると主公松平越前守<sup>しゆこう えちぜんのかみ しゆんがく</sup>(春岳)に仕えて江戸行きを命ぜられた。江戸では大砲や小銃の操練法や製造法などを勉強した。安政元年(1854)1月、ペリー率いる<sup>アメリカ</sup>米国艦隊(黒船)の2度目の来航時に、船に乗り込み士官たちと交流するとともに、艦内の大砲を写し取るなど船内の様子を調査した。

安政4年(1857)氏が28歳の時、越前守所轄の軍器製造所長となり、和蘭<sup>オランダ</sup>の銃砲製造書、器械学書及び和蘭式、英国式などの洋式銃や火薬などを長崎から取寄せた。それらをもとに職工数百名を指揮し、大砲、小銃などの銃器、火薬や雷管など舶来品に劣らない良品の製造に取り組んだ。これらの武器弾薬は、明治維新前後の各地緒戦<sup>せんしやう</sup>で戦捷を博した。当時、南北戦争後の米国では優れた軍器、軍装などが開発されており、氏は何としても一見したく藩主に願い出た。慶応2年(1866)37歳の時、主君春岳公が幕府の許可を得たことにより渡米が叶った。汽船グレートレバブレキ号で<sup>サンフランシスコ</sup>桑港に着いたが、未だ大陸横断鉄道は



図1 佐々木長淳氏 (大日本蚕糸会報 第289号 (大正五年二月) より)

ないため再び海路でパナマに戻ってから<sup>ニューヨーク</sup>紐育に到達した。氏はグラント将軍に、南北戦争で使用した大砲や小銃などの譲り受けについてお願いした。また、ジョンソン大統領に謁見すると大統領は、各地の陸海軍学校、軍艦、砲台、軍器廠<sup>しやう</sup>、火薬製造所などの見学について便宜を図った。氏はゴブメント砲一小隊分、元込<sup>もとこめ</sup>小銃数百挺など最新の武器を購入した。(「心影」本邦蠶會の柱石佐々木長淳翁、大日本蚕糸会報198号M41年10月・199号M41年11月)

## あおいまち ＜葵町製糸場＞

明治4年(1872)氏が43歳の時、突如として工部省勸工寮より、赤坂<sup>かんこうりょう</sup>霊南坂<sup>れいなん</sup>(後の葵坂)に模範製糸場を建設するため出省するように命が出た。それまでの武器の世界から大きな方向転換となるため戸惑ったが、国の殖産の事業であることから命に従い「工部省勸工寮十等出仕」となった。製糸工場の設計に関しては<sup>スイス</sup>瑞西人ミューラー、<sup>ドイツ</sup>独逸人グレーベン、ワフネルなどの協力を得るとともに、職工、人夫を指揮して着手した。しかし、初めての器械であり、中には古びた不完全な部品もあるなど施行及び設置に多大な苦勞を要した。<sup>ちゅうやけんこう</sup>晝夜兼行の努力によるも工事は約1年におよび翌明治5年(1873)、水車による4馬力の動力で<sup>イタリア</sup>伊太利式(ケンネル<sup>さ</sup>縶<sup>か</sup>り掛け式)九十六人繰りの繰糸機が完成した。本模範製糸工場は、同明治5年操業の官営富岡製糸場と並んで、繰糸技術を学んだ多くの伝習生を国内各地の製糸工場に排出した。(「叩門」蚕糸業実歴談(上)・(下)、大日本蚕糸会報170号M39年7月・171号M39年8月)

なお、東京農工大学科学博物館では、近年、葵町製糸場の図面40点余りが発見され、その3D復元化が行われている(<https://readyfor.jp/projects/aoimachi>)。

## <sup>オーストリア</sup> ＜<sup>オーストリア</sup> 喫太利万国博覧会＞

明治6年(1873)、<sup>オーストリア</sup>喫太利のウイーンで万国博覧会が開催されるのにもない、勸工寮七等出仕となった氏は、政府の命により日本部一等事務官として、神社や日本庭園などの造営の監督に当たった。日本館は<sup>ドイツ</sup>独逸皇帝陛下はじめ多くの来場者で賑わっ

た。博覧会の設営終了後に氏は、欧州各地での養蚕、製糸および絹糸紡績業に関する視察を行った。当時は<sup>オーストリア</sup>喫太利に属していたゴリツィアの養蚕試験場で、ボルレー養蚕学校長から育蚕法、病理、生理、解剖、および顕微鏡使用法など多岐に亘り学んだ。わずか12日間の短い期間で、しかも言葉の壁もあるなかで何日もの徹夜を重ね、予定の修業を遂げその習得証明書を受けた。<sup>イタリア</sup>伊太利ではパドヴァ養蚕学校のエンリコ・ヴェルソン師から蚕の生理や解剖術、蚕種製造法、蚕種の病毒調査術などについて講義を受けるとともに、各所にある養蚕場および製糸場を視察しその実情を調査した。<sup>スイス</sup>瑞西のルツェルン近郊では、絹糸紡績所を訪れ、紡績機械を運転する蒸気機関や水車の他、関連する器械の種類、運転方法などについて視察した。(友田晴彦(東京農業大学)、ウイーン万国博覧会と日本における養蚕技術教育—佐々木長淳の『蚕事学校』構想を中心に—)

因みに、<sup>イタリア</sup>伊太利のパドヴァ養蚕学校は現在、国立の農林水産省農業環境研究センター内に引き継がれていると思われ、2020年と2021年に同センター内で試験飼育してできた繭の性状調査について、蚕糸科学技術研究所に依頼があり協力した。パドヴァでは約150年を経ても養蚕の研究が行われている。

## ＜農事試験場＞

明治7年(1874)1月、新設の内務省勸業寮は養蚕製糸の研究とその技術の国内伝承のため、新しく内藤新宿に農事試験場を設けた。ウイーンから帰国直後の氏は、

---

---

内藤新宿試験場養蚕掛<sup>かかり</sup>長の任を受け、桑園の造営、2階建ての養蚕室及び製糸場の建設に従事した。明治9年(1876)には、氏と同時期にウイーン万博の際に欧州を視察してきた圓中文助<sup>まどなか</sup>とともに、内山下町の製糸試験場が移転してきた。氏は、各種飼育法とその座繰りによる繰糸成績の比較試験、各種桑樹の成育試験、風穴蚕種<sup>ふうけつ</sup>と普通蚕種の比較試験およびオーガスト温湿度計を用いた養蚕法の試験など精力的に行った。飼育試験では、蚕児の適当な温度は華氏70度(摂氏21度)前後で、30日から37、38日間に上簇すれば、出来た繭の繭糸長は800回(900m)になることを確認している。さらに、饗蛆<sup>きょうそ</sup>(繭内で成長した蛆により蛹は死亡し、蛆が脱出した繭は「穴あき繭」となり、製糸原料として不適当になる)について研究し、それまで曖昧だった概念を修正した。また、顕微鏡検査所を設け、蚕の微粒子病検査を開始した。(温井眞一他、佐々木長淳研究会、内務省初期養蚕政策と佐々木長淳-我が国の養蚕に与えた影響についての検証-)

当農事試験場は、国内養蚕・製糸の技術伝承<sup>こうし</sup>の嚆矢であり、現在の国立大学法人東京農工大学の前身となっている。

### <絹糸紡績所>

氏は、上述のように欧州で絹糸紡績の器械や技術について学んできた。それまで養蚕で出るケバ類や製糸で出る糸屑などは、安価で欧州に輸出していた。そのため氏は、明治7年(1874)絹糸紡績所の開設を政府に建議し、翌8年許可がでた。明治9年(1876)、群馬県美土里郡温井村に官営の

絹糸紡績所として建設が始まり、氏は紡績所長として農事試験場掛長兼任で設営に携わった。温井川を利用した水力と蒸気機関を動力とし、各種機器を揃えた国内技師による初の模範絹糸紡績所として明治10年(1877)開業した(明治15年(1882)新町紡績所と改称)。生産した絹紡糸は京都の丹後ちりめん<sup>ちりめん</sup>に用いられるとともに、「伊勢崎銘仙」の緯糸として使用され、広く普及した。(井上直子(城西大学)、世界史から見た銘仙、群馬県立世界遺産センター紀要第3号。濱崎 實(京都工芸繊維大学)、絹糸紡績業の歴史的展開過程-創業期から戦前期まで-)

### <ミラノの養蚕学会>

明治9年(1876)、上記絹糸紡績所の建設中に、政府より氏にイタリアミラノで開催される養蚕学会への参加要請があった。農事試験場の運営と絹糸紡績所の建設などで手一杯であり、さらに日本の代表という重責を担うことに戸惑った氏であったが、重ねての説得を受け、意を決して参加した。学会には、ルイパスツール博士など各国の著名な学者が参列していた。氏は講演の課題として、日本の蚕病名とイタリアの蚕病名との比較対照表および饗蛆(きょうそ)生態とその精図について説明した。氏の講演発表は、パスツール博士をはじめ欧州蚕業界から多大な賞賛を得るとともに、パスツール博士から名誉副議長に推挙された。また、アルコール浸漬の微粒子病蚕のサンプルを描写したところ、その精緻さが評価されるなど、学会において存在感を示した。

## ＜禁裡<sup>きんり</sup>の御養蚕と試験場の廃止＞

明治11年(1878)5月、内務卿<sup>きょう</sup>の大久保利通が暗殺されると内務省の施策は一変し、養蚕政策は大幅に縮小された。翌12年、内藤新宿農事試験場は宮内省の所轄となり、御所内に新たに御養蚕場が設けられた。氏は青山御所養蚕掛として、英照皇太后陛下の御養蚕のお手伝いをすることとなり、明治19年(1886)まで上州島村の田島弥平らとともに勤めた。後に氏は喜寿の時、大日本蚕糸会報176号(M40年1月「叩門<sup>かいきゆうだん</sup>」懷舊談)に次の詩を寄稿して当時のことを偲んでいる。

九重のかふこの わさのめくみにて  
とみさかゆらん 四方の民草

かしこ  
(畏くも青山の御所に養蠶御用掛を務め  
まつりしいにしことを夢に見はへりて)

明治三十九年十二月

正六位 佐々木長淳 七十七歳

## ＜全国巡回養蚕講和＞

明治11年(1878)林友幸、渡辺洪基、大島圭介らによる同士によって「万年会」が結成された。この会は、殖産興業に関する研究を目的とし、事務所を京橋区西紺屋町においた。氏は明治16年(1883)に自ら会員となり、機関誌「万年会報告」に「蚕事通信」欄を設けた。その中で養蚕に関する質問を受けることとし、質問があると懇切丁寧に答えた。これが忽ち全国に知れ渡り活況を呈することとなり、出張講話の要請が増えた。氏は、全国各地に出かけて養蚕改良の普及に努めた。氏の養蚕家に対す

る啓蒙指導はその後、全国の研究や実習に関する施設、機関の増加につながった。

## ＜おわりに＞

氏は明治初年、勸工寮勤務となり農事試験場の建設を担当した。そしてウイーン万博日本館の設営後西洋における蚕学を習得した。帰国後、養蚕製糸における研究と伝習に精力を注ぐとともに、絹糸紡績所の設立、微粒子病検査の導入、蠶蛆<sup>きょうそ</sup>対策など超多忙を極めながらも、我国の蚕糸絹業全般に亘りその基礎を確立した。氏の長男で東京帝国大学農学部教授の忠次郎(明治32年に「忠二郎」から「忠次郎」に改名)も微粒子病の研究を継続するなど氏の最大の後継者であり、養蚕・昆虫学の分野で多大な業績を遺した。氏はまた、大日本蚕糸会の設立当時から特別会員として業界に貢献した。大正5年(1916)87才で亡くなると、清浦会頭からの弔辞が大日本蚕糸会報に掲載されるとともに、翌年図2に示すように恩賜賞を授与された。

[注1] 長淳の読み仮名について：福井市立郷土歴史博物館などでは「ながあつ」、日本大百科全書(ニッポニカ)では「ながのぶ」となっているが、大日本蚕糸会報内では「ちょうじゅん」の読み仮名としていることから、本稿では「ちょうじゅん」とした。

恩賜賞

東京市赤坂区青山南町

故従五位勲五等 佐々木長淳

明治初年官命に依り器械製絲場を起して歐式製絲の端を啓き次で渡歐するや専ら蠶桑製絲及紡績に關する學術を研鑽して歸朝し爾來或は蠶業試驗場の創設に任じ或は絹絲紡績所の設置に努め或は育蠶術を討究して當業者を指導し或は微粒子検査の方を開始して病毒の恐るべきを教へ或は蠻蛆の蠶體に寄生する經過を公表して世人を警醒したり其他禁裡の養蠶所に奉仕し各地を巡回して蠶桑の知識を傳へ又著書を公にして後進の啓沃に力むる等明治蠶業の建設者にして其蠶絲業上に貢獻せる功績洵に偉大なり仍て本會功績表彰規則に據り特に茲に恩賜賞を  
追贈す

大日本蠶絲會總裁大勲位功二級 載仁親王

図2 大日本蠶糸會報 第304号 (大正六年 (1918) 五月号)

恩賜賞 佐々木長淳

# イベント情報

## ●岡谷蚕糸博物館 東京農工大学科学博物館連携展

### 「フランス式・イタリア式・そして諏訪式へ ～VRでよみがえった葵町製糸場～」

富岡製糸場と同時期に作られ、明治6年に現在の東京都港区虎ノ門付近にあったとされている官営2番目の製糸工場『勸工寮葵町製糸場』。

この製糸場は、イタリア式の製糸法を採用し、フランス式である富岡製糸場と同時期に作られ、器械製糸技術の伝播に貢献したことが知られています。幻であったこの勸工寮葵町製糸場の図面40点余りが発見されたことにより、東京農工大学科学博物館で復元プロジェクトが立ち上げられました。膨大な紙の図面をデジタル画像化し、VRで復元された製糸工場を同時代の資料とともにご覧いただきます。

〈会期〉 令和5年11月23日（木）～令和6年2月18日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: [hakubutsukan@city.okaya.lg.jp](mailto:hakubutsukan@city.okaya.lg.jp)

## ●岡谷蚕糸博物館 企画展

### 「岡谷シルク」

岡谷シルク推進事業により取り組んできた様々な事業

養蚕から製品化まで「オール岡谷産」の製品や制作プロセス、教育プログラムによる蚕学習の姿、アーティストによる作品、認証製品などの展示を行い、製糸業の偉大な歴史を持つ岡谷が未来へ向けて行う挑戦の成果をご覧いただきます。

〈会期〉 令和6年2月22日（木）～5月中旬 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: [hakubutsukan@city.okaya.lg.jp](mailto:hakubutsukan@city.okaya.lg.jp)

## ●日本絹の里 特別展

### 「季節を巡る草木染 — 移りゆく景<sup>けい</sup> 変わらぬ礎<sup>いしずえ</sup> —

草木染は植物など天然のものから色素を得る染色方法です。本展では、長年にわたり草木染の研究と創作活動を行っている「草木屋」(山崎樹彦代表)にご協力いただき、四季折々に採れる染料の魅力と、豊かな意匠の作品をご紹介します。

〈会期〉 令和5年12月16日(土)～令和6年2月4日(日) 9:30～17:00

休館日: 火曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始の休館 12/26～1/5 (1/3は臨時開館)

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

## ●日本絹の里

### 「群馬の絹」展

群馬の繭・生糸を使用した、和装品や洋装品・工芸品などの絹製品の展示と販売を行います。手織りや藍染め等のワークショップ、きもの着付け体験などのイベントも同時開催します。

〈会期〉 令和6年2月8日(木)～2月12日(月・祝) 9:30～17:00

会期中無休

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

---

---

●日本絹の里 特別展

「まゆクラフトと絹の作品展」

繭の素材をいかした独創的なまゆクラフト作品とともに、工芸作家及び日本絹の里友の会会員による作品を展示し、絹や繭の魅力を紹介します。

〈会期〉令和6年2月17日（土）～4月8日（月） 9:30～17:00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●シルク博物館

ワークショップのご案内

1月6日（土）、3月23日（土）子ども向け「まゆ人形作り」

1月7日（日）～8日（月・祝）子ども向け「小さなシルクハンカチ染め体験」

1月20日（土）、3月30日（土）「くみひもストラップ作り」

1月27日（土）、3月2日（土）子ども向け「かいことシルクの勉強会」

2月24日（土）子ども向け「まわた人形・あひるの親子作り」

\*申し込みは電話による事前申込制（先着順）です。

詳細は、HP、シルク博物館にお問い合わせください。

〈開館時間他〉9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンター2階

Tel: 045-641-0841

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>

---

---

## ★イベント開催報告

### 岡谷蚕糸博物館 ―シルクファクトおかや― 企画展

#### 「人生の節目と絹に寄せる思い」

会期： 8月24日(木)～11月19日(日)

開催報告：

七五三や入学、卒業、結婚など、人生の節目の特別な日の装いとして人々に寄り添ってきた絹の衣装を展示しました。学芸員の展示品解説では、参加者から旧制高校の制服の思い出が甦ったと感想をいただきました。「繭で作る髪飾りワークショップ」では繭をカッターで切る硬い感触や、何層にもなっている繭の構造に驚きながらも素敵な髪飾りが完成し、好評をいただきました。

### 群馬県立日本絹の里 特別展

#### 「きものの彩り ～岡信孝銘仙コレクションより～」

会期： 9月7日(木)～10月16日(月)

開催報告：

日本の近代化を支えた絹産業において、群馬県では、明治5年に官営の富岡製糸場が設立されました。一方明治8年、須坂町では日本初の製糸結社である「東行会社」が創立され、長野県の製糸業を牽引することとなりました。明治から昭和にかけて生糸の町として栄えた須坂市。蔵の町並みが残る旧市街の玄関口にあたる場所に、須坂クラシック美術館はあります。

本展では、日本画家の岡信孝画伯の古民芸コレクションを収蔵展示する須坂クラシック美術館の協力により、大正から昭和のアンティーク着物を中心に古き美しき“もの”への想いをお伝えしました。

### 群馬県立日本絹の里 企画展

#### 「宝塚歌劇 ～美しき和の世界～」

会期： 10月21日(土)～12月11日(月)

開催報告：

宝塚歌劇は、大正3(1914)年に初演を行って以来、100年以上の歴史を持つ日本を代表する劇団です。宝塚歌劇の魅力の一つである絢爛豪華な衣装は、鮮烈な美しさで多くの人々を魅了し、夢と感動を与えています。本展では、宝塚歌劇展初となる《和》の衣装を中心とした構成で、宝塚歌劇ならではの華やかな衣装をはじめ、小道具や公演ポスター、デザイン画など臨場感あふれる展示をお楽しみいただきました。会期中には、宝塚歌劇団 OG の遠山昌子さんによるトークショーや宝塚歌劇団の現役装置家による講話と作画ワークなどのイベントを開催しました。

---

---

## シルク博物館 秋の特別展

### 「第 27 回全国染織作品展」

会期： 10 月 21 日(土)～11 月 26 日(日)

開催報告：

「第 27 回全国染織作品展」では 62 点の入選作品を展示しました。会期中は多くの方にご来館いただきました。入選者のご家族やご友人等とご一緒に鑑賞されていました。HP や X(旧ツイッター)、新聞などで当展覧会を知り、各地から足を運んでくださった方々もいました。アンケートには、当館主催の「全国染織作品展」を開催毎に楽しみにして来ているといった声や、一つ一つの作品の表現力に圧倒されたという声が寄せられました。

### 駒ヶ根シルクミュージアム「第 16 回現代手織物クラフト公募展」

会期： 10 月 26 日(木)～12 月 3 日(日)

開催報告：

全国から寄せられた着物・反物・帯地・タペストリーの中から入賞・入選作品 45 点を展示し、展示作品の図録(頒布価格 1,000 円)を発刊しました。本公募展は、「全国で独自の創作活動をしている織物のプロおよび将来プロを目指す方たちが、創作したオリジナル織物作品を展覧し、広く織物愛好家に向けて紹介すると共に、自立の道を拓く支援の場となること」を目的として 16 年間開催してきました。諸般の事情で今回が最後となりました。長年本公募展を支えて来て下さった皆様方にお礼申し上げる次第です。

## 2023 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2023 年度第 3 次審査委員会を 2023 年 11 月 17 日（金）に開催しました。今回の申請は 5 者で、新規申請者 2 者 5 品目、使用許諾されている 3 者のうち履歴の追加 2 者 5 品目、数量の追加 1 者 3 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、5 者 13 品目に対し、11 月 24 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (同) COCON 代表者名：田中恵子 (担当者：田中隆) 〒 575-0003 大阪府四條畷市岡山東 5-5-32 TEL：072-876-0774 表示者登録番号 252	シュラフ型 シルクシーツ	4 枚	繭生産 JA 北群渋川管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製編・縫製 (株) 森下メリヤス工場
	ナイトキャップ	10 枚	
	手袋	35 双	繭生産 JA 北群渋川管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製編・縫製 (株) 今川
	靴下	20 足	繭生産 JA 北群渋川管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製編・縫製 タビオ(株)
(新規) 福和商事(株) 代表者名：奥田彰 (担当者：奥田晃史) 〒 103-0004 東京都中央区東日本橋 3-6-18 TEL：03-3661-2467 表示者登録番号 253	白生地(表地)	20 反	蚕品種 錦秋×鐘和 繭生産 JA おやま・JA なす南・ JA なすの管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸(株) 製 織 村井機業場 精 練 丹後織物工業組合

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴の追加) (株) 千總 代表者名：西村真一 (担当者：山崎風香) 〒 604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町 80 TEL：075-211-2531 表示者登録番号 001	後染反物 (訪問着)	110 反	繭生産 宮城県・山形県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 田勇機業 (株) 染色加工 自社
	後染反物 (振袖)	100 反	繭生産 岩手県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 篠春織物 (株) 染色加工 自社
	後染反物 (振袖)	90 反	繭生産 山形県・宮城県・福島県内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 篠春織物 (株) 染色加工 自社
(履歴の追加) 渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒 990-0301 山形県東村山郡山辺町大字山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190	先染反物 (もじり織)	52 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA なすの管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 梅津撚糸工場 精練染色 佐米染色 (有) 製 織 自工房
	先染反物 (裏地)	180 枚	
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：村田善郎 (担当者：大西隆寿) 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	後染反物 (振袖)	12 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總
	後染反物 (振袖)	19 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 篠春織物 (株) 染色加工 (株) 千總
	後染反物 (振袖)	9 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總

---

---

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。  
純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2023 年度第 4 次：2024 年 2 月 27 日（火）  
純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2024 年 1 月 25 日（木）

（連絡先）

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、小林

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3415

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

小林：kobaei@silk.or.jp

# 一般財団法人大日本蚕糸会から

## 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2023年11月24日(2023-第3次)現在

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株)千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株)織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株)丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株)坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有)平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株)信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株)きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株)上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有)樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株)銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有)織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株)結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(有)絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
018	(有)大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢(株))	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袷紗)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯、袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)、先染反物(御召類、着尺)、後染反物(色無地)
027	(有)織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))
028	(株)丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株)むらかね	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株)高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株)さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多栄子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、服飾品 (ストール)
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
069	(株) 紅輪 ( (株) 紅輪 まるやま・京彩 グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)、白生地
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) 綾の手 (旧 (株) あきやま)	宮崎県綾町	先染反物 (綾の手袖)、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が 5% を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が 5% を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着、紋意匠))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー (手織り)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市下京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、 パジャマ、袱紗
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、服飾品 (ショール)
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、 服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗)、ネクタイ、帯地 (白塩瀬)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福純織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、服飾品 (ショール)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、服飾品 (ストール)
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物)、市松綾御召 (草木染め)、もじり織 (草木染)、もじり織、裏地 (紬八掛、駒八掛、紬駒八掛、紬綾八掛))、服飾品 (先染ストール (綾織草木染、もじり織草木染))
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウエア	東京都千代田区	服飾品 (ストール)、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬、御召)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 (12 マルキ、15 マルキ))
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	服飾品 (ストール)
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地、表地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	服飾品 (ニットストール)
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
235	(有) 中彦	京都市上京区	先染反物 (御袷 (五条袷))
236	大月俊幸	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
237	久保原由佳理	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
238	(株) やしま	広島県広島市	白生地 (表地 (紋意匠))
239	(株) 長谷川	京都市上京区	先染反物 (西陣お召)
240	永見 (株)	鳥取県米子市	白生地 (表地 (紋意匠))
241	京都和装 (株)	京都市下京区	白生地 (表地 (紋意匠))
242	(株) 前田源商店	山梨県富士吉田市	服飾品 (スカーフ、ストール)
243	近江真綿工房 原田	滋賀県米原市	寝具寝装品 (真綿ふとん (国産近江真綿ふとん))
244	昭和西川 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (真綿ふとん)
245	大迫織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
246	玉城柳子	沖縄県南城市	先染反物(着尺(首里織))、先染帯地(首里織)
247	丸八生糸(株)	京都市上京区	白生地(表地)
248	(株)高島織物	京都市北区	白生地(表地)
249	くらしつむぐあとリエ	福井県坂井市	白生地(表地、帯地)、服飾品(ストール)
250	UGAAI	東京都世田谷区	洋装服地
251	石川県立津幡高等学校	石川県河北郡	白生地(牛首紬)、白生地(帯地(牛首紬))
252	合同会社COCON	大阪府四條畷市	寝具寝装品(シュラフ型シルクシーツ、ナイトキャップ、手袋、靴下)
253	福和商事(株)	東京都中央区	白生地(表地)

月日	活 動 内 容 等
10/6 ~ 7	シルク・サミット 2023 in 横浜 (神奈川県)
11/1	蚕糸功労者表彰式 (帝国ホテル)
11/3 ~ 5	「KOUGEI EXPO IN OKAYAMA」への協力 (岡山県)
11/9	第3回オーガニックシルク検討会・第2回シルクの機能調査検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係) (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/17	純国産絹マーク審査会 (2023年度第3次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
11/21	「きものの日」シンポジウム 2023 (農林水産省主催)
12/1	第2回シルクの普及検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係 WEB 会議)
12/6	第3回シルクの機能調査検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係 WEB 会議)
12/6	若手養蚕農家との意見交換会 (WEB 会議)
12/20	第3回トレーサビリティシステム検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係) (東京都有楽町 蚕糸会館)
12/22	夏休み「カイコを育てよう! 2024」キャンペーンの打合せ (WEB 会議)

# 蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
野外博物館北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひこころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
群馬県立世界遺産センター（セカイト）	370-2316	群馬県富岡市富岡 1450-1	0274-67-7821
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
桑都日本遺産センター 八王子博物館	192-0904	東京都八王子市子安町 4-7-1 サザンスカイトワー 3 階	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市緑区田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
相模原市立博物館	252-0221	神奈川県相模原市中央区高根 3-1-15	042-750-8030
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」	243-0405	神奈川県海老名市国分南 1-6-36	046-233-4028
一般財団法人繊維産業会レインボープラザ(愛川繊維会館)	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 4410	046-281-0356
愛川町郷土資料館	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内)	046-280-1050
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号(上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ(株)内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
(公財)手織技術振興財団・織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884

名 称	〒	住 所	電 話
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5-1	0883-63-2502
アヤミハビル館	907-1801	沖縄県八重山郡与那国町与那国 2114	0980-87-2440

# 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

## 【行政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(一社) 日本絹人織織物工業会  
(一財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
TAFS (東京織物卸商業組合)  
KOMS (京都織物卸商業組合)  
(公財) 京都和装産業振興財団  
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会  
全国シルクビジネス協議会

<http://www.kinujinsen.com>  
<http://www.mawata.or.jp>  
<http://www.tanko.or.jp>  
<http://www.nishijin.or.jp>  
<http://www.tafs.or.jp>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>  
<https://www.wasou.or.jp>  
<http://www.kougeihin.jp>  
<https://japan-silk.org>

## 【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>  
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>  
(国) 宇都宮大学農学部分子昆虫学研究室 <http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/>  
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室  
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>  
(国) 東京農工大学農学部生物生産学学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>  
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>  
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>  
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>  
(国) 京都工芸繊維大学工芸学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>  
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>  
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>  
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>  
(国) 九州大学大学院農学研究院遺伝子資源開発研究センター家蚕遺伝子開発分野  
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sanshi/insect/top.html>  
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>  
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>  
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>  
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>  
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>

## 【学会】

日本シルク学会 <http://jsst.sakura.ne.jp>  
(一社) 日本蚕糸学会 <http://jsss.or.jp>  
日本野蚕学会 <https://jsws-yasan.com>

## 【博物館等】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館 <https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>  
群馬県立日本絹の里 <https://www.nippon-kinunosato.or.jp>  
愛媛県西予市野村シルク博物館 <https://www.city.seiyo.ehime.jp/miryoku/silkhakubutsukan>  
東京農工大学科学博物館 <https://www.tuat-museum.org>  
駒ヶ根シルクミュージアム <https://komagane-silk.com/>  
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや) <https://silkfact.jp>  
はたや記念館ゆめおーれ勝山 <https://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

---

---

## 【博物館等】

美馬蚕糸館

<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

野外博物館 北海道開拓の村

<https://www.kaitaku.or.jp>

富岡製糸場

<https://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/>

群馬県立世界遺産センター

<https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>



## 統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	48
(2) 養蚕農家数の推移	49
(3) 繭生産数量の推移	50
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	51
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	52
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	
(11) 製糸工場の原料繭需給	53
(12) 製糸工場の操業状況	54
(13) 生糸在庫数量の内訳	55
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	
(15) 生糸の原産国別輸入数量	
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	
(18) 絹織物生産数量	56
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	57

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	59
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	60

# 一 資料・国内一

## (1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item  暦年 Calendar Year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,319
2022	163	51	313	0.2	7	22	—	1,444
前年比(%) 2022/2021	87.6	83.6	95.4	100.0	100.0	110.0	—	109.5

資料 ・ 2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・ 2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・ 2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・ 2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織織物工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

## (2) 養蚕農家数の推移

### Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit: number)

暦年 Calendar Year 項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2010	756	650	494	637
2011	627	562	358	531
2012	571	514	319	462
2013	486	422	260	399
2014	393	359	230	328
2015	368	323	221	313
2016	349	310	209	310
2017	336	307	201	280
2018	293	254	179	262
2019	264	233	153	224
2020	228	205	129	188
2021	186	161	98	156
2022	163	146	89	142
前年比(%) 2022/2021	87.6	90.7	90.8	91.0

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (~2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002~2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005~2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009~).

### (3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項目 Item 暦年 Calendar Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
2019	92	35	22	35	348	150	144	156
2020	80	31	19	30	351	151	147	160
2021	61	22	15	24	328	137	153	154
2022	51	20	13	18	313	137	146	127
前年比(%) 2022/2021	83.6	91.4	86.2	75.0	95.4	99.8	95.4	82.5
2022年 構成比(%)	100.0	39.5	24.7	35.9				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

## (7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

## Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	0	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	0	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2022	168	3,646	1	3,754	927	7,945	182	2,803	3,726
2021 - 1	11	123	0	141	1,059	428	6	273	286
2	14	118	0	175	1,016	504	4	199	299
3	16	371	0	414	989	339	7	223	379
4	12	5	0	121	885	451	5	253	363
5	12	506	0	479	924	460	20	202	351
6	13	178	0	200	915	619	13	251	377
7	13	266	0	303	891	772	12	242	281
8	12	244	0	234	913	585	9	188	198
9	12	389	0	470	844	433	9	251	231
10	14	219	0	236	841	451	14	216	390
11	18	323	0	313	869	480	21	231	306
12	13	322	0	336	868	614	24	218	390
2022 - 1	12	379	0	436	823	588	2	264	233
2	8	222	0	199	854	484	32	162	316
3	19	541	0	481	933	667	33	178	348
4	15	—	1	159	788	412	30	214	355
5	13	500	0	476	825	857	7	256	326
6	15	426	0	313	953	703	7	256	355
7	12	291	0	333	923	893	19	227	330
8	16	473	0	411	1,001	764	17	224	290
9	16	149	0	222	944	688	10	248	283
10	14	187	0	347	798	642	4	262	323
11	12	297	0	227	880	739	9	287	310
12	16	180	0	149	927	509	11	226	258
2023 - 1	13	271	0	345	866	650	10	209	182
2	10	179	0	270	785	309	10	118	285
3	14	295	0	272	822	705	15	221	316
4	17	—	0	142	697	514	9	222	292
5	14	460	0	504	667	742	2	221	289
6	15	221	0	126	777	791	12	205	291
7	11	218	0	280	726	578	23	230	258
8	11	354	0	290	801	742	6	227	251
9	10	198	0	221	788	681	14	216	257
10		218	0			599	20	224	265

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局（～2010.3） 中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）  
中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～）(B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)  
(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)  
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Production	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics		二次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45
2021	175	45	0	130	3	6	6	115	130	24	0	0	8	16	106	45
2022	173	45	0	128	4	8	6	110	128	22	0	0	8	14	106	45
前年比 (%) 2022/ 2021	99	100	—	98	119	129	103	96	98	92	—	—	100	87	100	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

## (11) 製糸工場の原料繭需給

## Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭・t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
	2018	92	117	78
	2019	89	97	70
	2020	72	73	69
	2021	55	57	67
	2022	46	59	54
	2021 -			
	1	0	4	65
	2	0	4	60
	3	0	5	54
	4	0	4	50
	5	0	4	46
	6	14	5	55
	7	6	5	56
	8	10	5	61
	9	3	5	59
	10	19	5	73
	11	4	7	70
	12	1	4	67
	2022 -			
	1	0	4	62
	2	1	3	60
	3	0	7	53
	4	0	5	48
	5	1	5	44
	6	10	5	49
	7	8	5	52
	8	7	5	54
	9	1	6	49
	10	18	5	62
	11	1	4	59
	12	0	5	54
	2023 -			
	1	0	4	49
	2	0	4	44
	3	2	5	41
	4	0	5	37
	5	0	4	33
	6	9	5	34
	7	10	4	40
	8	3	3	40
	9	1	3	37

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation(2018.11～)

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況  
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	36	239	51
	2020	8	74	23	31	218	48
	2021	7	74	15	20	214	43
	2022	7	64	14	22	230	41
2021 -	1	6	74	16	22	14	38
	2	6	74	21	28	14	38
	3	6	74	21	28	18	35
	4	6	74	15	20	16	35
	5	6	74	13	18	15	35
	6	7	74	12	16	22	37
	7	7	74	12	16	22	37
	8	7	74	7	9	17	37
	9	7	74	12	16	18	43
	10	7	74	12	16	22	44
	11	7	74	18	24	17	43
	12	7	74	16	22	19	43
2022 -	1	6	74	10	14	15	35
	2	6	74	14	19	14	35
	3	6	74	17	23	23	35
	4	6	74	19	26	19	35
	5	6	74	16	22	17	34
	6	6	74	12	16	21	34
	7	6	74	13	18	22	36
	8	6	74	13	18	18	33
	9	7	44	18	41	21	41
	10	7	44	13	30	21	40
	11	7	44	12	27	19	40
	12	7	44	14	32	20	41
2023 -	1	7	44	15	34	16	42
	2	7	44	16	36	17	40
	3	7	44	17	39	21	42
	4	7	44	15	34	21	34
	5	7	44	15	34	21	34
	6	7	44	17	39	21	44
	7	7	44	15	34	22	44
	8	7	44	12	27	16	41
	9	7	44	12	27	19	41

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳  
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出入業者 Ex and Importers
暦 年 Calendar Year					
	2015	1,410	94	1,316	
	2016	1,406	130	1,276	
	2017	1,747	156	1,591	
	2018	1,330	230	1,100	
	2019	1,429	238	1,191	
	2020	1,066	178	888	
	2021	868	170	698	
	2022	927	127	800	
2021 -	1	1,059	182	877	
	2	1,016	183	833	
	3	989	189	800	
	4	885	183	702	
	5	924	186	738	
	6	915	186	729	
	7	891	184	707	
	8	913	185	728	
	9	844	182	662	
	10	841	174	667	
	11	869	175	694	
	12	868	170	698	
2022 -	1	823	163	660	
	2	854	160	694	
	3	933	163	770	
	4	788	160	628	
	5	825	155	670	
	6	953	146	807	
	7	923	131	792	
	8	1,001	134	867	
	9	944	135	809	
	10	798	134	664	
	11	880	125	755	
	12	927	127	800	
2023 -	1	866	129	737	
	2	785	125	660	
	3	822	131	691	
	4	737	138	599	
	5	667	138	529	
	6	777	143	634	
	7	726	142	584	
	8	801	139	662	
	9	788	135	653	

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10).The Dainippon Silk Foundation(2018.11～)

(18) 絹織物生産数量  
Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)  
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290
2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153
2021	1,319	840	587	9	244	336	128	208	143
2022	1,444	1,016	716	0	300	280	72	208	148
2021 -									
1	90	56	38	1	18	25	9	16	9
2	95	59	40	1	18	26	10	16	9
3	98	57	43	1	13	30	10	19	12
4	106	64	50	0	13	29	11	17	14
5	109	71	48	1	22	27	11	16	11
6	123	79	51	0	28	29	11	18	14
7	109	69	52	1	16	29	10	19	10
8	97	58	46	0	12	27	10	17	11
9	111	70	53	1	15	29	11	18	13
10	118	75	54	1	20	28	11	17	14
11	131	89	54	1	34	29	11	18	13
12	133	93	57	1	35	29	11	17	11
2022 -									
1	104	71	51	0	19	22	7	15	12
2	124	90	61	0	29	22	6	16	12
3	124	87	66	0	21	24	6	18	13
4	126	87	70	0	17	25	6	19	15
5	123	89	64	0	25	23	5	18	11
6	145	105	76	0	29	24	6	18	16
7	121	82	65	0	18	24	7	17	15
8	112	78	63	0	15	23	6	17	11
9	104	70	47	0	23	24	6	18	11
10	118	81	55	0	26	24	6	18	13
11	121	88	51	0	37	24	6	18	10
12	121	88	48	0	40	23	7	17	9
2023 -									
1	106	75	52	0	23	23	7	16	8
2	99	65	45	0	20	23	6	17	12
3	104	63	48	0	15	25	7	18	16
4	112	73	54	0	19	25	7	18	14
5	113	77	48	0	29	24	7	17	12
6	110	72	47	0	25	25	7	18	12
7	100	63	45	0	18	25	8	17	11
8	101	68	44	0	24	23	7	16	10
9	93	59	41	0	18	23	6	17	10
10	102	68	42	0	26	25	7	18	9

資料：(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 絹織物生産数量の数量は2018年～2022年分までデータ補正がある。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks: 1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. As for the production quantity of silk fabrics, data in the year between 2018 and 2022 have been corrected.

## (19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5
2021	1,319	108.6	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6
2022	1,444	109.5	158,982	103.5	11,988	97.3	281,796	94.4
2021 -								
1	90	73.3	9,930	65.5	773	61.4	19,619	80.4
2	95	77.5	11,810	54.2	910	53.3	20,969	81.0
3	98	74.7	11,526	64.0	1,129	63.0	26,690	92.8
4	106	87.5	14,265	77.6	755	64.4	25,705	129.1
5	109	125.0	11,586	91.5	952	142.3	24,566	215.7
6	123	141.4	13,201	141.6	870	126.1	29,082	136.5
7	109	123.2	14,672	172.0	938	259.8	24,811	133.7
8	97	136.0	10,040	140.5	1,072	174.9	24,161	147.8
9	111	131.0	13,545	135.3	1,092	242.1	24,360	118.8
10	118	130.9	15,194	145.5	1,038	160.9	26,324	107.9
11	131	130.3	13,557	117.7	1,463	167.4	26,748	108.5
12	133	123.2	14,301	126.2	1,329	214.7	29,272	120.9
2022 -								
1	104	115.2	10,399	104.7	983	127.2	22,277	113.5
2	124	131.2	12,746	107.9	982	107.9	20,744	98.4
3	124	126.9	12,376	107.4	863	76.4	25,113	93.8
4	126	118.8	14,948	104.8	1,111	147.2	26,693	101.3
5	123	113.2	11,207	96.7	1,127	118.4	22,216	89.5
6	145	118.2	14,645	110.9	1,237	142.2	26,282	90.4
7	121	111.3	14,540	99.1	996	106.2	22,233	91.3
8	112	115.8	11,938	118.9	939	87.6	20,915	86.3
9	104	93.7	13,993	103.3	845	77.4	24,163	98.3
10	118	100.1	14,932	98.3	1,109	106.8	23,440	88.9
11	121	92.7	13,737	101.3	961	65.7	23,932	89.5
12	121	91.2	13,521	94.5	835	62.8	22,127	91.4
2023 -								
1	106	102.1	9,451	90.9	1,011	102.8	24,615	110.5
2	99	80.0	12,892	101.1	836	85.1	19,786	93.6
3	104	83.6	11,963	96.7	901	104.4	24,475	97.5
4	112	88.8	13,330	89.2	878	79.0	23,422	89.2
5	113	91.9	11,894	106.1	1,197	106.2	22,043	100.1
6	110	75.9	13,523	92.3	952	77.0	23,807	89.1
7	100	82.4	13,194	90.7	1,121	112.6	18,686	83.9
8	101	90.4	8,952	75.0	855	91.1	16,250	76.8
9	93	89.2	14,213	101.6	684	80.9	20,410	81.2
10	102	86.5	12,354	82.7	989	89.2	19,502	83.2
11			12,399	90.3	1,030	107.2		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1. 西陣は京都府織布生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。

2. 2018年～2022年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk &amp; Rayon Weaver' s Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by their local unions.

Remarks : 1. Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2. The data in the year between 2018 and 2022 have been corrected.

# 蚕の一生



協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

—資料・海外—

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2017年	2018年	2019年
日本	Japan	トン 125	トン 110	トン 92
中国	China			
インド	India	161,684	185,560	185,143
ウズベキスタン	Uzbekistan			
イラン	Iran			
タイ	Thailand			
ブラジル	Brazil	2,995	3,024	3,034
ベトナム	Vietnam			
北朝鮮	North Korea			
トルコ	Turkey			
ブルガリア	Bulgaria			
インドネシア	Indonesia			
シリア	Syria			
主要国の計	Total	164,804	188,694	188,269

区 分		2020年	2021年	2022年
日本	Japan	トン 80	トン 62	トン 51
中国	China			
インド	India	169,345	187,241	199,752
ウズベキスタン	Uzbekistan			
イラン	Iran			
タイ	Thailand			
ブラジル	Brazil			
ベトナム	Vietnam			
北朝鮮	North Korea			
トルコ	Turkey			
ブルガリア	Bulgaria			
インドネシア	Indonesia			
シリア	Syria			
主要国の計	Total	169,425	187,303	199,803

注 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用し、2016年以降はデータが取れない。

Note Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture, however, there is no data available since 2016 Commission (ISC).

### (3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格

#### Spot Price of Various Silk Goods

2023年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	146.40 ~ 159.60	2,928 ~ 3,192
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	167.20 ~ 188.00	3,344 ~ 3,760
3	玉繭(double cocoon)		118.30 ~ 136.80	2,366 ~ 2,736
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	152.60 ~ 182.20	3,052 ~ 3,644
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	464.00 ~ 482.80	9,280 ~ 9,656
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	467.40 ~ 491.40	9,348 ~ 9,828
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	463.20 ~ 482.40	9,264 ~ 9,648
8	玉糸(doupion silk)	110d	453.60 ~ 463.60	9,072 ~ 9,272
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.30 ~ 48.00	846 ~ 960
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.10 ~ 67.60	1,242 ~ 1,352
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	52.60 ~ 57.30	1,052 ~ 1,146
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	45.30 ~ 49.90	906 ~ 998

注:1元=20円

1 CNY=20JPY

2023年9月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	148.50 ~ 161.50	2,970 ~ 3,230
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	169.00 ~ 188.00	3,380 ~ 3,760
3	玉繭(double cocoon)		118.50 ~ 137.00	2,370 ~ 2,740
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	153.00 ~ 183.00	3,060 ~ 3,660
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	465.00 ~ 485.50	9,300 ~ 9,710
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	468.00 ~ 494.00	9,360 ~ 9,880
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	465.50 ~ 482.00	9,310 ~ 9,640
8	玉糸(doupion silk)	110d	454.00 ~ 464.00	9,080 ~ 9,280
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.50 ~ 48.00	850 ~ 960
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.50 ~ 68.00	1,250 ~ 1,360
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.00 ~ 57.50	1,060 ~ 1,150
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.50 ~ 50.50	930 ~ 1,010

注:1元=20円

1 CNY=20JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2023年10月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	150.75 ~ 163.00	3,015 ~ 3,260
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	170.75 ~ 188.75	3,415 ~ 3,775
3	玉繭(double cocoon)		118.50 ~ 137.00	2,370 ~ 2,740
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	152.00 ~ 182.25	3,040 ~ 3,645
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	468.25 ~ 491.50	9,365 ~ 9,830
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	472.50 ~ 497.50	9,450 ~ 9,950
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	465.50 ~ 483.00	9,310 ~ 9,660
8	玉糸(douppion silk)	110d	454.00 ~ 464.00	9,080 ~ 9,280
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.50 ~ 48.00	850 ~ 960
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.50 ~ 68.00	1,250 ~ 1,360
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.00 ~ 57.50	1,060 ~ 1,150
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.50 ~ 50.50	930 ~ 1,010

注:1元=20円

1CNY=20JPY

2023年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	151.00 ~ 163.80	3,171 ~ 3,440
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	171.00 ~ 189.00	3,591 ~ 3,969
3	玉繭(double cocoon)		118.50 ~ 137.00	2,489 ~ 2,877
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	148.20 ~ 181.60	3,112 ~ 3,814
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	473.20 ~ 498.80	9,937 ~ 10,475
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	478.20 ~ 503.20	10,042 ~ 10,567
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	465.80 ~ 483.80	9,782 ~ 10,160
8	玉糸(douppion silk)	110d	454.00 ~ 464.00	9,534 ~ 9,744
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	42.50 ~ 47.50	893 ~ 998
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	62.50 ~ 67.50	1,313 ~ 1,418
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	53.00 ~ 57.00	1,113 ~ 1,197
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	46.50 ~ 50.00	977 ~ 1,050

注:1元=21円

1CNY=20JPY

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

**<https://silk.or.jp>**

シルクレポート 2024年1月号 No.80 令和6年1月1日発行

編集 / 発行

**一般財団法人大日本蚕糸会**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3415

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず